

数値目標の進捗状況と今後の方向性について

基本方針	指標(目標年度: 令和2年度)	目標数値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	2年度	現状分析と今後の方向性	
1 地域におけるスポーツ・レクリエーション活動の振興	週1回以上スポーツをする市民の割合	70%以上	46.8%	48.6%	47.2%	51.4%	51.5%	44.6%	67.1%	67.7%	71.9%	68.5%	<p>【現状分析】※詳細は別紙1(表1-1、1-2)のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和2年度市民意識調査で「週1回以上スポーツを行う」と回答した市民の割合は68.5%(前年比△3.4%)であり、これは全国調査の59.9%(前年比+6.3%)を上回っている。 ○ 令和2年度市民意識調査の結果を年代別に分析すると、別紙1表1-1のとおり、全世代の中で最も低いのは30歳代の55.6%であり、最も高いのは10歳代の79.1%である。週1回未満の方のスポーツの実施を妨げている要因については、別紙1表1-2のとおり、全体では「時間がとれない」が最も高くなっている。 ○ 令和2年度市民意識調査で「健康のために1日30分以上歩いている」と回答した市民(70歳以上)の割合は、男性71.5%(前年比+10.0%)、女性56.3%(前年比△3.4%)であった。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 市民が気軽にスポーツに親しむことのできる機会の提供と環境づくりを進めるとともに、広報紙等を活用して、過大な負荷をかけずとも日常の中で楽しみながら体を動かすことも含めてスポーツであることを周知し、日常生活の中にスポーツを取り込み、習慣化するきっかけづくりに取り組む必要がある。 ○ 特に仕事や育児が忙しい30代に対し、通勤時や買い物時などの時間を活用したウォーキングや階段昇降などに取り組むよう働きかける必要がある。 ○ 「高齢者いきいき活動ポイント事業」等を効果的に活用し、高齢者が地域との関わりを持ちながら、健康づくりや介護予防に主体的に取り組めるよう支援する。 併せて、新型コロナウイルス感染症の影響により、積極的な外出やグループ活動が実施しにくい環境であっても、自宅で取り組める健康体操や個人で取り組めるウォーキング等の普及啓発に継続して取り組む。 	
	30分以上健康のために歩く70歳以上の割合	男66% 女56%	男57.9% 女47.9%	—	—	—	—	男69.2% 女60.8%	男66.5% 女66.1%	男68.2% 女66.3%	男61.5% 女59.7%	男71.5% 女56.3%		
2 学校における体育・スポーツの充実	全国体力・運動能力、運動習慣等調査(高等学校は新体力テスト)の結果において広島市の平均値が全国の数値以上となる種目の割合	小学校	8種目中、7種目以上	—	5.5種目	6種目	5種目	5.5種目	5.5種目	4種目	4種目	4.5種目	—	<p>【現状分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査は中止 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小・中学校においては、教員を対象とした実技研修会等の実施や、体力向上推進校の指定等、引き続き、体力向上に向けた施策に取り組む必要がある。 ○ 高等学校においては教員を対象とした研修会等の実施や、専門的技術指導力を備えた指導者の派遣等、引き続き、体力の向上に向けて取り組む必要がある。
		中学校	9種目中、7種目以上	—	5種目	6種目	5.5種目	7種目	5.5種目	6.5種目	5.5種目	5.5種目	—	
		高等学校	9種目中、7種目以上	5.3種目	5.5種目	5.3種目	5.8種目	4.7種目	3.3種目	3種目	4.8種目	5種目	—	
3 競技力の向上	国民体育大会に出場する広島県選手に占める広島市選手(ふるさと選手を含む。)の割合	65%以上	47.7%	57.5%	55.5%	57.7%	54.6%	49.7%	52.4%	51.0%	51.6%	—	<p>【現状分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度の国民体育大会は中止 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島県の取組と連携を深め、ジュニア選手の発掘・育成を推進するとともに、ジュニア選手医科学サポートを積極的に活用し、国体出場選手に対するサポート体制を強化する必要がある。 	
4 まちの活力創出に向けたスポーツの振興	トップス広島に加盟するチームの試合を年1回以上会場で観戦した市民の割合	50%以上	37.2%	37.1%	37.0%	39.8%	41.7%	43.2%	43.8%	46.3%	43.9%	25.9%	<p>【現状分析】※詳細は別紙1(表2)のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和2年度の観戦率は25.9%(前年比△18.0%)であった。これは、新型コロナウイルス感染症の影響による試合数の減少や観客数の制限等が影響したと考えられる。 ○ また、年代別に分析すると、10歳代が全世代の中で最も低く、14.0%であり、20歳代が全世代の中で最も高く、30.3%である。最も減少しているのは、10歳代で前年比△37.5%である。 ○ チーム別ではカーブが23.2%で最も高く、サンフレッチェが5.6%、ドラゴンフライズが1.9%と続いている。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 国際大会の開催・誘致などにより、市民のスポーツに対する関心を高めるとともに、カーブとサンフレッチェ以外のトップス広島加盟チームの試合観戦を促進する取組を進める必要がある。 	